

一学期終業式を迎えました。

この一学期は、皆さんにとって充実したものであったでしょうか？

一年生は、高校生活にも慣れ、小坂井高生らしくなってきたところでしょう。

二年生は、これから学校の中心としてますます活躍してくれることを期待します。

そして三年生は、いよいよ受験勉強を本格化させていくところだろうと思います。後に悔いを残すことのないよう、計画的に進めていってください。

夏休み、そして2学期に向けて、皆さんが、それぞれの立場でしっかりと活躍してくれることを期待しています。

さて、突然ですが、「あなたは面倒くさがりですか？」と聞かれたらどう答えますか？

おそらく、程度の差こそあれ「自分は面倒くさがりです」と答える人は、相当数いるのではないかと思います。かくいう私も、きっとそう答えるだろうと思います。

しかし、同じように「面倒くさい」と思っても、そこから先には分かれ道があるのではないのでしょうか？

「これは面倒くさい。まあ、やめとこう」と思って立ち止まってしまうのか？

「これは面倒くさい。だけど、しょうがない。やるか」と思って前へ進むのか？

この「面倒くさいこと」に対する向き合い方の違いが、それぞれの人の在り方を少しずつ変えていくのではないのでしょうか？

皆さんは、宮崎駿さんをご存じだと思います。

日本を代表するアニメーション映画監督であり、スタジオジブリを設立して、数々の長編アニメを生み出してきた人です。

先日、たまたま撮りためてあったNHKの「プロフェッショナル 仕事の流儀」というドキュメンタリー番組で、宮崎さんの特集したのを見ました。実は、10年ほど前にも同じ番組で宮崎さんの特集をしていたのですが、宮崎さんは今回の番組でもその時と同じ言葉を使っていたために、「そういえば、前回も同じことを何度も言っていたなあ」と思い出しながら見ていました。

その、宮崎さんが何度も使っていた言葉というのが、今、話題にしている「面倒くさい」という言葉です。

10年前、その当時の宮崎さんは、TVカメラが撮影しているにもかかわらず、何度も「面倒くさい」という言葉を発していました。

彼は、「風立ちぬ」という映画の「絵コンテ」を完成させるために、アニメーターが描いた絵を手直ししながら、何度も「面倒くさい」と、愚痴のように漏らすのです。

それを見ていて、私は「宮崎駿でも面倒くさいと思うんだ」と驚いたことを覚えています。

宮崎さんのような、日本にとどまらず、世界を代表するレベルのクリエイターであれば、「面倒くさい」なんてこととは無縁だと思っていたのです。

しかし、違いました。

貧乏ゆすりをしながら何度も書いては消し、またやり直す。自分の納得のいく絵コンテができるまで何度も「面倒くさい」と口にしながら、書き直す作業を続けていました。まさに生みの苦しみといった感じで、宮崎さんも実は大変な苦勞の末に映画を作り出していたのだなど、改めて思いました。

「なぜ「面倒くさい」という言葉を繰り返すのか？」

テレビスタッフからの問いに対し、宮崎さんはこう答えています。

「面倒くさいっていう、自分の気持ちとの戦いなんだよ」

そして、続けます。

「世の中の大事なことって、たいてい面倒くさいんだよ」

「大事なことは、たいてい面倒くさい」

あなたたちはこの言葉をどう受け止めますか？

誰でも、面倒くさいことは、できるなら避けたい、やらないで済ませたい。

しかし、それを避けていたとしたら、本当は自分にとって大事だったこと、大切だったことを、やり遂げないままに生きていくことになってしまうかもしれない。

実際、宮崎さんは、「面倒くさい」を繰り返しながらも、絵コンテを完成させるべく、手は動かし続けます。納得がいくまで書き直し、決して諦めようとしません。そうして、映画は確実に完成に向かっていくのです。

宮崎さんはこうもいっています。

「面倒くさくないところで生きてると、面倒くさいのはうらやましいな、と思うんです」

そう思うと、「面倒くさい」は、決して悪いことではないのかもしれませんが。そして、「何かを成し遂げる人は、人一倍面倒くさいことをしている」と考えても、あながち間違っていないのではないのでしょうか？

「面倒くさい、だけど、やろう！」

人生の中で出会う、「面倒くさい」ことを避けることなく、それを覚悟して乗り越えていく。

難しいことに出会ったときに感じる気持ちは、たとえ同じであったとしても、それに対する態度や行動の違いが、自分の生き方を左右していくのではないのでしょうか。

明日から夏休みとなります。

高校一年生としての夏、二年生としての夏、そして三年生としての夏。それぞれその立場において、やっていくことがあることでしょう。それこそ「面倒くさい」と感じることもあるかもしれません。あなたたちはそれとどう向き合いますか？

それを決めるのはあなたであり、あなた自身なのです。

健康や安全に留意しながら、貴重な時間を有意義に過ごして行ってください。

そして、また9月に元気にお会いしましょう。